



蚊で病気がうつるのはなんでだろう？



昨年の夏はデング熱、今年はジカ熱と騒がれていますが、テレビでは殺虫剤を撒いたりして蚊の駆除をしている場面がよく流れていますね。この映像を見た人は「蚊に刺されたら病気になっちゃうのかな？」と思うかもしれません。でも、蚊に刺されたら必ずこれらの病気になると言うわけではありません。これらの病気の原因はそれぞれデングウイルス、ジカウイルスというウイルスで、これらのウイルスを持っている蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）に刺されると感染してしまうのです。

では、これらのウイルスはどのように拡がるかについて簡単に説明しますと、蚊がウイルスに感染している人の血液を吸うことで、この蚊はウイルスを体内に持った状態になります。そしてこの蚊は、また別の人の血液を吸いに行きます。するとこの蚊に刺された人は、血液を吸われるときに蚊の体内にあるウイルスに感染するという形（蚊媒介性）で感染が広がっていきます。他にも蚊によって感染が広がるものにマラリアや日本脳炎がありますが、蚊の種類が違うだけで原理は同じです。

インフルエンザなどのようにヒトからヒトへ直接感染するのではなく、ある生物を介して感染が拡大する事を「ベクター伝播疾病」と言い、全ての感染症の約 17%を占めています。ベクターとは「運び屋」の意味で、デング熱やジカ熱などの場合では蚊のことを指します。それ以外に、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の原因ウイルスを運ぶマダニや、アフリカ睡眠病を引き起こす寄生虫を運ぶツツェバエ、つつが虫病を引き起こす細菌の 1 種（リケッチア）を運ぶツツガムシ（ダニの 1 種）などもベクターとなります。

デング熱やジカ熱の感染を防ぐには、有効なワクチンなどは無く「蚊に刺されない事」しか方法はありません。蚊がいそうな場所に行くときには、虫よけ剤を使用したり、長袖、長ズボンを着て肌を露出しないように気を付けましょう。



ヒトスジシマカ



ネッタイシマカ

写真提供 国立感染症研究所昆虫医科学部